『民法（全）』

（Y.K.・20 代・学部生）

本書に関心を持った理由は，民法改正にいち早く対応した一冊本ということにあります。民法は法典の特徴ゆえに，一つの分野につき一冊の教科書があるのが普通ですが，700 ページ程度で家族法も含めタイトル通り民法全部をカバーしているので，大変便利に感じます。

もちろん，分量的には，削らざるを得ない内容もこの本の中にはありましたが，重要判例や学説と思われるものは，きちんと載せられていて，学部生である私にもかなりのところ読みこなすことが出来ました。講義の予習・復習には大部分この本に沿って学修できると思いますし，他の体系書などと併用して読み，書き込みなどを入れると更にハイレベルなまとめノートになるだろうなと素人ながらに思います。

注意が必要な点は，条文番号や文言は改正後の状態ですので，施行されるまでの期間は，改正前の条文とも照らし合わせながら読んでいかなければなりません。ただ，平成 29 年 1 月の最高裁判例までフォローされ，親族法では，いわゆるパートナーシップ証明書についても載っており，最新の民法について触れられる一冊だと感じます。

潮見先生の本らしく，いわゆる要件事実や証明責任を誰が負うのかについても書かれていることも，ポイントであると思います。

『法学教室』2017 年 11 月号（No.446）掲載「Reader's Voice」より